

「私のねがい」——木村三郎

姫路市に昆虫の住む自然林を広げよう。姫路市の自然も相当むしばまれて来ました。今のうちに昆虫その他生物の資料を集めなければ、子供達の代またその次の世代には、活字や写真だけでの虫だけで動く虫が全くみられなくなるだろうと思われます。それを防ぐ意味からも、緑いっぱい昆虫のたくさんいる自然公園を増やして行ってほしいと思います。日本全国の数多い都市の中で一番に姫路市が、また姫路市民一人一人がその気持ち、そういう考えを持ってほしい。私個人としてはこれ以上自然を破壊してもらいたくはないが、だからといって経済的にもみなければならぬ。やはり時代の流れにはさからえないだろう。カヤぶきの家から瓦屋根、鉄筋コンクリートへと変化 土の道からアスファルト、コンクリートへと変化している。人間はこの変化に対応していける知能があるが昆虫には食べ物を取り上げられると死ぬしか道はない。まず公園を昆虫の集まる木や草で緑化して行ってほしい。なぜ松やイチョウやヒマラヤスギ等の木で緑化するのだろうか。それよりもその土地

土地に自生している木や草がよいと思う。つぎつぎと宅地等に利用すべく山をけずっているのだから少なくともその分だけのこれらの木を植えて行ってほしい。虫好きな一部の者の勝手気ままなことだろうか。これからの計画分から又、公害等で枯れた木の補充に、また街路樹として、たとえばエノキの道路、クヌギ、カシワの道路、道々色んな蝶々や昆虫が飛んでいる町に……………。

昆虫と植物のつりあいは良く出来たもので、おたがいがバランスをとりあい、ある特定の種だけが大量発生するかと思うと次にはその外敵の昆虫天敵や鳥がうまくセーブしてくれる。自然界にはそのようにバランスを保とうとする力があるのです。それを人工的に作られた薬剤で害虫益虫ともども殺す空からの全面的な薬剤散布はやめてほしい。虫がいっぱいの町、緑のある街、夢のある町、ぜひ一握りの虫好きな私達や子供達またその次の世代のために旗揚げしてほしい。今からでも遅くはない。今この機会を逃がすと永遠に虫のいる町がなくなる様な気がする。

子供—虫へのあこがれ——

城東幼稚園職員

子ども達の好きな虫についてたずねてみた。女兒は「ちょうちょ」が多く、男児は「カブトムシ」「クワガタ」その他、セミ、トンボ、ハサミムシ、カナブン、カタツムリ、ホタル、テントウムシ……………。

四月終り頃の教材に「ミツバチ」五月から六月初めに「アリ」を取り上げた。そのせいか「ミツバチ」「アリ」「アリの卵」「アリの巣」にも興味をもっている。

アリの創作童話またはアリと遊びながら出来たお話しのなかにアリじごくが出てくるの

でアリじごくを実際に見せてやりたいと思う。私自身がずっと前に美しくできているアリじごくのスリバチ状の穴に魅せられた経験があるのでその話を子ども達にして聞かせることができた。

アリじごくはどんなところに住んでいるのかしら？ できれば手に入れたい。アリの巣に雨が降ったらどうなるのかしら？ 子ども達はつかってしまうと言っているが私には答えることができずにいる。どなたか教えて下さい。